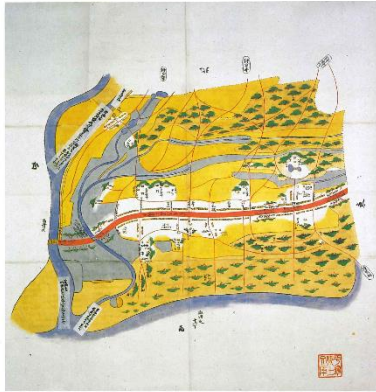


『平塚市史9』 通史編 古代・中世・近世

本巻は、大化前代から慶応3年（1867年）大政奉還までを対象とし、日本の歴史の流れの中で市域の歴史がどう展開したか、というところに視点をおき市域中心に歴史を叙述しました。（必要に応じて明治初年頃まで記述した部分あり。）



口絵5 平塚宿絵図 (平塚市博物館所蔵)
文化8年(1811)頃の平塚宿と平塚新宿の様子がおか。東海道の左右に家並みがつつき、海岸は松林が広がっている。平塚八幡宮の前には小川が流れている。



口絵1 金目観音本尊聖観音立像及び台座銘 (期金目 光明寺所蔵)
台座銘によると明応2年(1493)に本尊聖観音像が寄進された。この台座には聖徳太子や百濟ら113名の名が記されている。聖徳太子聖徳太子

—掲載内容—

第1編 古代・中世

- 第1章 古代の平塚……………大化前代の平塚、奈良・平安時代の平塚
- 第2章 鎌倉時代の平塚……………荘園の発達、公領のありさま、源氏武士団の形成、鎌倉幕府の成立、北条氏勢力の伸長、執権政治、相模川と平塚宿の発展
- 第3章 南北朝・室町時代の平塚……………足利氏の制覇、鎌倉府と平塚、禅秀の乱前後の平塚、永享の乱以後の平塚、戦乱気の平塚
- 第4章 金目郷と光明寺
- 第5章 戦国時代の平塚……………北条早雲の相模支配、北条氏綱の相模経営と武蔵進出、北条氏康・氏政の時代、市域郷村の諸相、北条氏直と小田原の戦い

第2編 近世

- 第1章 近世社会の成立……………市域村々と領主、検地の進展と村々、中原代官と中原御殿、領主支配の展開
- 第2章 近世社会の展開と村々……………領主支配の進展、交通の整備と発展、村と水利、中原の御林、村と農民
- 第3章 近世社会の変質と村々……………幕政改革と村々、旗本財政と年貢、平塚宿と助郷の村々、船運の発展、報徳仕法、幕末の政治と村々、幕府の滅亡
- 第4章 寺社と信仰……………村々の寺社、祭りと信仰
- 第5章 村の文化と生活……………生活さまざま、村の文芸、庶民と教育